

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	中野区東中野 3-12-2
園名	東中野しらゆり保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ> (0歳児クラス)

『からだ』

身の回りにある様々なものに対し、興味をもって「やってみたい」「さわってみたい」という気持ちを大切に、体を使った体験を試してみる。

<テーマの設定理由>

0歳児の子どもたちは、身の回りにある素材や玩具に手を伸ばし、触れ、確かめながら世界を知ろうとしている。その一つひとつの動きは、偶然ではなく、自分の体を通して環境と関わろうとする主体的な探究の姿である。そこで、子どもたちがどのような姿勢で対象に向き合い、どのように手や指を使っているのかに着目した。特に、姿勢の安定が遊びの深まりや集中の持続にどのように影響するのかを考え、「からだ」をテーマに設定した。体の使い方が整うことで、見つめる・つまむ・繰り返すといった動きがどのように変化するのかを丁寧に見取り、環境との関係を探っていきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

シール貼り	20分/週2回	6人
型はめ	20分/週5回	6人
読書	5分/週3回	6人

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ドーナツテーブル1台に対し、乳児椅子3脚の組み合わせを2カ所に設置
- ・子どもたちが自由に手に取れる場所に玩具を置く
- ・型はめ、絵本、シール、紙を準備する

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

これまで床で行っていた型はめや絵本、シール貼りなどの活動を、椅子に座り姿勢を整えた状態で行うようにした。椅子に座ることで体幹が安定し、両手が自由に使えるようになったことで、型はめでは形と穴を見比べながら繰り返し試す姿が見られた。絵本は机の上に置くことでページをめくりやすくなり、自らめくろうとする姿が増えた。

シール貼りでは、台紙から指先で慎重にはがし、狙いを定めて貼ろうとするなど、指先を使った細やかな動きに集中する様子が見られた。

姿勢の安定は遊びの持続時間の伸びにもつながり、「もう一回」と繰り返し取り組む姿が増えた。体の使い方が整うことで、遊びの質と深まりに変化が生まれた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

棚から型はめを取り出し、机に置いて椅子に座り遊び始める子どもの姿が見られた。その様子に気づいた他の子どもたちも、同じように型はめを手に取り、机に置いて隣に座りながら遊びを始めていった。

姿勢が安定することで、床で遊んでいた時よりも肘や首の角度が保たれ、形と穴を見比べながら落ち着いて取り組む姿が見られるようになった。

子どもが型はめを手に取り「これは？」と保育者に問いかけると、保育者が「いちごだね」と応じる場面があった。それを聞いた子どもは「いちご」「できた」と言葉にし、その声に反応して周囲の子どもたちも「いちご」と真似をしていた。

こうしたやりとりの中で、型はめに集中していた子どもの姿を見て、絵本を手に取り椅子に座って読み始める子どももあり、友だちの姿が次の行動につながっていく様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

玩具を床に置いて遊んでいた時と比べ、椅子に座り机上で遊ぶ環境を整えたことで、子どもたちはより長い時間落ち着いて遊びに取り組む姿が見られるようになった。

座位が安定することで体幹が保たれ、両手を自由に使える状態がつくられたことが、集中の持続につながっていると感じた。姿勢が整うことで視線も安定し、対象物をよく見て確かめながら操作する姿が増えた。

その結果、つまむ・はがす・押し込むといった手指の細やかな動きが丁寧になり、手指の巧緻性の向上にもつながっていると考えられる。

0歳児にとって「からだ」は遊びの土台であり、環境の工夫によって身体の使い方が変わることで、遊びの質や集中力にも変化が生まれることを実感した。